

『環境＝よき友』 ～ 『実践のモデル』 ～

樋野興夫（順天堂大学名誉教授、新渡戸稲造記念センター長、恵泉女学園理事長）



『お茶の水（OCC）メディカル・カフェ』は、東日本大震災の2011年に創設準備がなされ、2012年に当時OCC副理事長であった今は亡き榊原寛（1941-2020）先生が始められた。来年（2024年）に、『12周年記念誌』が編集長：山崎智子先生と編集委員：青木美由紀様、増田謙様で企画製本されることが決定された。ただただ感謝である。

2003年に初版『われ21世紀の新渡戸とならん』、2018年に新訂版、2019年4月には英語版『I Want to Be the 21st Century Inazo Nitobe』が発行されることになった。私の人生に強い印象を与えた言葉は、小学校の卒業式で聴いた『ボーイズ・ビー・アンビシャス』（boys be ambitious）である。クラーク精神が、内村鑑三（1861-1930）、新渡戸稲造（1862-1933）を生んだことも知らぬまま、ぽっと希望が灯るような思いであったものである。その後、内村鑑三、新渡戸稲造、南原繁（1889-1974）、矢内原忠雄（1893-1961）の読書歴に繋がった。

人生における出会いは、出会った時に受ける影響だけに留まらず、20～30年後に影響してくることがある。まさに、人生は開いた扇のようである。『人生邂逅の三大法則＝良き先生、よき友、良き読書』であることを痛感する日々である。

しかし、『環境＝よき友』が整わないと継続しないであろう。まさに、『OCC』は、『実践のモデル』であろう！

樋野興夫（順天堂大学名誉教授、新渡戸稲造記念センター長、恵泉女学園理事長）



人生における出会いは、出会った時に受ける影響だけに留まらず、20～30年後に影響してくることがある。まさに、人生は開いた扇のようである。『人生邂逅の三大法則＝良き先生、よき友、良き読書』であることを痛感する日々である。

しかし、『環境＝よき友』が整わないと継続しないであろう。まさに、『OCC』は、『実践のモデル』であろう！

参加して頂いた方より「お茶の水メディカル・カフェ in OCC が開催されていることが感謝。」とのお言葉を頂いていることに感謝しています。

私は以前も書きましたが 2021 年 12 月より再開したメディカル・カフェから関わらせて頂いています。個人的に“がん”との直接的な関わりが弱く感じ、参加者の皆様との接点が余り無いと考えてしまいます。そのため、参加者の皆様のがんに苦しんでいることに寄り添えていない、と考えてしまうことがよくあります。そのような中で、自分は何も出来ないが、開催に関わらせて頂けるだけで良いんだ、と思わされて、とても励まされています。

お茶の水メディカル・カフェの成り立ちのことを思うと、多忙な中、毎回欠かさず参加している樋野興夫先生のがんが、まず頭に浮かびます。樋野先生の講話から励まされたり、参加者の中から希望される方と面談をされたりと、今、病氣と闘っている方々に対して大きな力になっていると推察します。

また、スタッフの方々も、ご自身もがん患者本人だったりしながら、お茶の水メディカル・カフェに長年にわたって集い、奉仕者として関わってくださる方々が集っていることも開催を続けられる要素です。

メディカル・カフェのことを「空っぽの器（うつわ）」と表現されますが、いくら場所が有り、奉仕者がいて、しかも樋野興夫先生がいらっしゃっても、参加者がおられなければ、無意味です。是非、がんに苦しんでいる方、初めて告知を聞いて動揺している方など、不安を抱えている人に集って頂きたいです。

メディカル・カフェには、病氣が良くなった人や長年闘病されている方々も参加されています。今は病氣が良くなっている、様々なことで苦しみ、不安と向き合っている経験の伺うことが出来ます。病氣の内容や状態は個人差はありますが、病氣の不安は尽きませんが、メディカル・カフェでは、参加者や樋野興夫先生に聞いて貰うことで、少しでも気持ちを軽くして頂ければと願っています。

皆様に参加いただいてこそこのメディカル・カフェです。皆様のご参加をお待ちしております。

お茶の水メディカル・カフェ in OCC スタッフ 増田謙



<がん哲学外来>

お茶の水メディカル・カフェ in OCC

～2024年開催予定日～

第27回	1月20日(土)
第28回	2月10日(土)
第29回	3月23日(土)
第30回	4月13日(土)
第31回	5月18日(土)
第32回	6月15日(土)

いずれも13時から開始です。

会場：お茶の水クリスチャン・センター

主催：お茶の水メディカル・カフェ 共催：お茶の水クリスチャン・センター
後援：一般社団法人がん哲学外来 がん哲学外来市民学会

樋野興夫先生との面談について
お茶の水メディカル・カフェ in OCCでは
毎回樋野先生が出席されますので、面談が
可能です。ご参加申し込みの際に、面談希望を
お伝えください。

<参加費無料・必ず事前にお申し込みください>
お申込み方法：mailもしくはFAXでお申し込みください。
Mail: ocmedicalcafe2021@gmail.com
Fax: 03-3296-1010
*お申込み時に必ずお名前と当日に連絡のつく
お電話番号をお知らせください。
*各回とも開催日の3週間前からお申し込みを受け付けております

～追悼記事～

昨年からお茶の水メディカル・カフェ in OCC のスタッフに加わっていただいた、東村山がん哲学外来メディカルカフェの代表：大弥佳寿子さんが 2023 年 11 月 28 日にお亡くなりになりました。いつも穏やかで、カフェ全体を優しく包み込む存在でした。これからもカフェを見守ってくれていると思います。

『大弥佳寿子様』と『天国で がん哲学外来・カフェ』

樋野興夫（順天堂大学名誉教授、新渡戸稲造記念センター長、恵泉女学園理事長）



2023 年 12 月 9 日、日華斎場での故大弥佳寿子様(享年 60 歳)葬儀通夜に wife と参列する。ご主人大弥雅昭氏から【— それまでは意識もしっかりとしていましたし、自宅で私が介護しながら普通の生活をしていました。先生やガン哲学の仲間に感謝状を送ると前日まで下書きを書いていたが、それは成就できませんでした。また、先生から推奨されていた私の風景写真のアルバム出版も私の方で制作が完了してあとは佳寿子が各写真にメッセージを入れることで完結するはずでしたがそれもできず無念であったと思います。— 生前はガン哲学外来カフェばかりの話題でした。先生にはお世話になりました。】のメールを頂いた。涙無くして語れない。

大弥佳寿子様は、『器量の持ち主』であった。『器量』といえば、『挑太郎』を思い出す。鬼ヶ島遠征の物語は、子供時代、村のお寺の紙芝居でよく聞かされたものである。『挑太郎』が『犬・雉・猿』という性質の違った（世にいう犬猿の仲）伴をまとめあげたことを挙げた。世に処する人は『性質の異なった者を容れるだけの雅量』をもたなければならないと新渡戸稲造（1862-1933）は『世渡りの道』（1912 年）は、述べている。

大弥佳寿子様から【先生は お話される内容も著される内容も ずっと変わりませんね。— 先日、整理していたところ、先生と出会う前の 2008 年の朝日新聞の切り抜き記事が 見つかりました。先生の基軸は ずっと変わりませんね。】の励ましのメールが筆者の『忘れ得ぬ宝物』である。

（次ページに続く）

(前ページより)

『樋野動物園 1 周年記念誌(編著：阿部友香、森尚子、大弥佳寿子)『個性と多様性』(2020 年)も担当された。大弥佳寿子様の『情熱、熱意、真摯な態度』には、ただただ感服した。大弥佳寿子様は、まさに、【『無邪気に、喜んで、小さなことに、大きな愛を込める』&『役割意識と使命感』】の実践者であった。大弥佳寿子様と、『天国でがん哲学外来・カフェ』を開催したいものである。

「樋野動物園」の歌
「小さな事に大きな愛を込めて」

作詞 樋野興夫

作曲 中野綾子

(1)

自分の力が
人の役に立つと思う時は進んでやれ
人の欠点を指摘する必要はない
人の過ちは語るには足りぬ
理由があっても腹を立てぬこそ非凡の人
感謝は優しき声に現れる
心がけにより
逆境も順境とされる

(2)

個性と多様性
相反する人の存在を認め
円を楕円形に変えていく
愛がなければすべては無意味
協調協力こそが力なり
存在自体に価値がある
ただ横にいただけ
必ず誰かの役に立っている

小さな事に大きな愛を込めて
段階ごとに辛抱強く
丁寧に仕上げて
小さな事に大きな愛を込めて
人生の目的は品性の完成